

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 230-0044

住 所 横浜市鶴見区弁天橋3番地1

氏 名 J & T 環境株式会社

代表取締役 長谷場 洋之 印

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	J & T 環境株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町5番地1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	R	サービス業（他に分類されないもの）
	中分類	88	廃棄物処理業
主たる事業 の内容	産業廃棄物のリサイクル		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		1,612 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		56,192 t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の地球温暖化対策の取り組みについては、ホームページに公表しています https://www.jt-kankyo.co.jp/csr/global_warming.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 (2021 年度)	第1年度 (2022 年度)	第2年度 (2023 年度)	第3年度 (2024 年度)	目標排出量
排出量 (t-CO2)	(実) 61,715 (調) 60,866	(実) 60,492 (調) 59,776	(実) 57,167 (調) 55,885	(実) 59,102 (調) 57,820	(実) 61,681 (調) 60,673
削減率		(実) 2.0 % (調) 1.8 %	(実) 7.4 % (調) 8.2 %	(実) 4.2 % (調) 5.0 %	(実) 0.1 % (調) 0.3 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

原単位等の活動量	処理量				原単位等の単位	t-CO2/ t
	基準年度 (2021 年度)	第1年度 (2022 年度)	第2年度 (2023 年度)	第3年度 (2024 年度)	目標とした値	
排出量原単位等の値	0.5686	0.5264	0.5177	0.5760	0.5683	
活動量の値	108,526	114,899	110,419	102,592	-	
排出量原単位等の削減率		7.4 %	9.0 %	-1.3 %	0.1 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	①川崎エコクリーンで購入電力使用量が減少したため、温室効果ガス排出量が減少した。また、廃棄物由来燃料の処理量が減少した。②高品質ペール化施設の処理量が増加したため原単位が低下した。③ペットボトルリサイクル工場の処理量が増加したが、それに伴う蒸気使用量が増加したため、原単位が上昇した。	
第2年度	①川崎エコクリーンで突発トラブルによる購入電力使用量と、汚泥入荷量増加に伴い助燃油となる廃棄物由来燃料の処理量が増加した。②高品質ペール化施設で処理する使用済み事業系ペットボトルの性状の汚染度が上がったため、洗浄水の昇温に使用する蒸気の使用量が増加した。③すべての工場において処理量が低下し、原単位が上昇する大きな要因となった。（5工場平均：-9.7%、前年度比-8.7%）	
第3年度	①川崎エコクリーンで引き続き廃棄物由来燃料使用量の多い状況が続いている。②扇島工場がJFEスチール高炉休止に伴う大規模土地利用転換により9月末をもって廃止されたことと、事業性の確認により高品質ペール化施設を9月末で廃止したことにより、処理量が大きく低下し原単位が上昇した。③川崎ソリッドで3階フロアを新たに賃借したため電力使用量が昨年度比約2倍となり、原単位上昇の要因となった。	
計画期間における排出量増減等の評価 （第3年度の報告時に記載）		第1年度第2年度と順調に排出量を削減できたが、2年度の削減率が高く、3年度は1年度と2年度のほぼ中間の数値となったが、目標排出量としては大きく低減できている。2か所の工場の廃止の為、上期の処理量が低下し原単位が上昇した。
上記評価を踏まえた改善対策など （第3年度の報告時に記載）		工場が減ったことに対し、残ったペットボトルリサイクル工場の、より効率的な操業と老朽更新などでの対策を積極実施する。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①主要設備の維持管理 ②エネルギー使用量の把握と削減計画の策定と実行 ③燃焼設備の焼却廃棄物混合組成の管理 ④蒸気配管の維持管理(配管補修、保温材のまき直し等) ⑤エアコンの清掃および適正温度管理 ⑥従業員に省エネ教育の実施 ⑦照明のLED化推進 ⑧機器老朽更新時の省エネモデル推進 ⑨内部監査による省エネルギー状況の確認と指導</p>
<p>第1年度</p>	<p>令和4年度に実施した対策 ①扇島工場とペットボトルリサイクル工場で、機器の運転方法の見直しにより電力使用量が低下した。 ②各工場のエネルギー使用量を毎月集計・分析し、結果と改善策の提示を実施。 ③川崎エコクリーン工場において、焼却廃棄物の混合組成を管理し、燃焼カロリーの安定化と投入量の増量できた。焼却効率安定化を図ることによって、安定稼働となり停止時間を削減できた結果買電時間(量)が減少できた。 ⑦家電加工工場の屋内照明10台と川崎エコクリーン工場の倉庫照明4台をLED化。 ⑧扇島工場の重機(1/2台)老朽化による燃費悪化の為、従来より低燃費車輛へ入替え実施。 ⑨内部監査による省エネルギー状況確認・指導のため、毎月のエネルギー使用状況を集計し各工場の省エネルギー計画の策定に寄与した。 ・高品質ペール化施設において蒸気使用温度の最適化を図り、処理量が倍増しているが蒸気使用量を前年同等レベルに抑えられた。(追加実施)</p>
<p>第2年度</p>	<p>令和5年度に実施した対策 ①扇島工場と家電加工工場で、市況動向等の影響により処理量が大きく低下したことと、重機導線等の運用方法見直しと、ホイールローダー1台を新型への入替え(扇島工場)により、軽油使用量が削減された。 ②各工場のエネルギー使用量を毎月集計・分析し、結果と改善策の提示を実施。(継続実施中) ③川崎エコクリーン工場において、焼却廃棄物の混合組成管理による燃焼カロリーの安定化対策を実施し、安定運転を継続している(継続実施中)。 ④ペットボトルリサイクル工場と高品質ペール化施設において蒸気供給配管の日常点検を実施 ⑦扇島工場の屋外照明3灯、川崎エコクリーン工場の屋内照明8灯をLED化。 ⑧川崎エコクリーン工場で、フォークリフト2台をバッテリータイプへ更新したことと、給水ポンプ6機を省エネモーター型へ更新した。 ⑨本社内部統制部の定期内部監査により、毎月集計しているデータの根拠について指導いただき、省エネルギー対策計画に寄与した。</p>
<p>第3年度</p>	<p>令和6年度に実施した対策 ②各工場のエネルギー使用量を毎月集計・分析し、結果と改善策の提示を実施。(継続実施中) ③川崎エコクリーン工場において、焼却廃棄物の混合組成管理による燃焼カロリーの安定化対策を実施し、安定運転を継続している(継続実施中)。 ④ペットボトルリサイクル工場と高品質ペール化施設において蒸気供給配管の日常点検より不具合発見と対策により蒸気使用量が減減できた。 ⑦川崎エコクリーン工場で、受入場の照明を20台LEDへ更新した。 ⑧川崎エコクリーン工場で、給水ポンプのモーター7台を省エネタイプへ更新した。 ⑨本社内部統制部の定期内部監査により、毎月集計しているデータの根拠について指導いただき、省エネルギー対策計画に寄与させた。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>各工場で、機器の老朽更新による省エネモデルへの改装は順調に進んだ。ペットボトルリサイクル工場の蒸気については、インフラそのものが老朽化しているため、点検を継続し、所内と供給元の対策を進めることができた。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()	×	
その他()	×	

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	×
EV、PHV、FCV	×	その他()	×

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	川崎エコクリーンは排熱を利用した自家発電の増大を図り、外部に売電することで他社の排出抑制に貢献する。 ・目標販売量、貢献予定量 5,000kWh/年×0.511=2,555t-CO ₂ /年 *0.511は令和2年度アバンエナジー(株)排出係数
第1年度	川崎エコクリーン工場の売電実績:5,162kWh(目標クリア) CO ₂ 排出抑制貢献量:2638t-CO ₂ /年
第2年度	川崎エコクリーン工場の売電実績:5,057kWh(目標クリア) CO ₂ 排出抑制貢献量:2518t-CO ₂ /年
第3年度	川崎エコクリーン工場の売電実績:5,332kWh(目標クリア) CO ₂ 排出抑制貢献量:2,090t-CO ₂ /年

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	廃棄物の入荷コントロールはできないが、エネルギー起源及び廃棄物非エネルギー起源のCO ₂ 排出抑制に努める。 ①購入電力の削減(稼働時の受電量のゼロ化) ②エネルギー起源(買電、軽油等)の削減 ③照明機器のLED化 ④空調機の適正温度での使用および空室時の電源オフ ⑤投入廃棄物の混合組成管理により廃棄物由来燃料使用量を削減し、廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源温室効果ガス排出量を削減
第1年度	①川崎エコクリーンの買電量、6ヶ月で受電量ゼロを達成。定修月(5月,8~9月,1月)を除いた買電量は10千kwh(時間にして17時間)に抑えることができた。 ②川崎エコクリーンで、フォークリフト1台をエンジン式からバッテリー式に更新 ③工場照明のLED化は、合計で30灯の電灯をLED化実施 ⑤投入廃棄物の加り調整による突発での焼却トラブルを低減したことにより、助燃油使用量が削減できた(基準年度比13%(46KL))
第2年度	①川崎エコクリーンの買電量、6ヶ月で受電量ゼロを達成。定修月(5月,9月,1月)を除いた買電量は35千kwh(時間にして約60時間)で、突発トラブルが4回で昨年より1回増加した。外部影響の突発トラブルが1回あった。 ②川崎エコクリーンで、フォークリフト2台をエンジン式からバッテリー式に更新、大型ポンプのモーター6機を省エネタイプへ更新 ③工場照明のLED化は、合計で28灯の電灯をLED化実施 ⑤投入廃棄物の加り調整による安定燃焼運転の継続
第3年度	①川崎エコクリーンの買電量、6ヶ月で受電量ゼロを達成。定修月(5月,9月,1月)を除いた買電量は約29千kwh(時間にして約60時間)で、突発トラブルが3回で昨年より1回減少した。 ②川崎エコクリーンで、大型給水ポンプ7機を省エネモーターに更新 ③工場照明のLED化は、合計で20灯の電灯をLED化実施 ⑤投入廃棄物の加り調整による安定燃焼運転と、混合投入の組合せによる処理量拡大を合わせて継続検討

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	3,638 t-CO ₂	3,713 t-CO ₂	3,539 t-CO ₂	2,910 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	1,725 KL	1,789 KL	1,797 KL	1,612 KL
事業所の数	3	3	3	3

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
J&T環境株式会社	川崎市川崎区水江町5番地1	3,371	3,428	3,294	2,565

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度

8 事業者における基準年度からの温室効果ガスの種類ごとの排出量の推移 (4号該当者等)

温室効果ガスの種類	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)				目標排出量 (t-CO ₂)
	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	
①非エネルギー起源CO ₂ (②除く)	54,417	53,168	49,365	52,078	54,417
②廃棄物の原燃料使用に伴う 非エネルギー起源 CO ₂	932	808	1,393	1,282	932
③CH ₄	7	7	7	7	7
④N ₂ O	2,721	2,796	2,863	2,825	2,721
⑤HFC					
⑥PFC					
⑦SF ₆					
⑧NF ₃					